

## 旧版を第4版へ更新・訂正するためのデータ差し替えのお願い

以下が『声の悩み 49 種のすっきり解消法 第4版』用に修正された画像と文章です。

まず、以下のページの文章の一部を訂正してください。

P.31 L.17

### 【誤】

喉の奥にある口蓋垂(こうがいすい。のどちんとも言います)を下に引き下げようとして声を出すと、声が高くなります。「アー」と言いながら、口蓋垂を上げ下げして、声の高さをいろいろと変えてみましょう。

### 【正】

喉の奥にある口蓋垂(こうがいすい。のどちんとも言います)を下に引き下げようとして声を出すと、声が低くなります。

P.221 L.10

### 【誤】

発声の理論からボイストレーニングの具体的は方法まで、・・・

### 【正】

発声の理論からボイストレーニングの具体的な方法まで、・・・

上記の下線部分の訂正をお願いいたします。

次に、画像を中心にした訂正をお願いいたします。

このファイル全体を印刷して、画像と文章の周りの 薄い青い切り取り線 に沿って切り取って、旧版の書籍の該当ページの画像の上に、または、該当ページ全体の上に糊で貼り付けてご利用ください。

お手数をおかけして申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

P.54 図 2-10

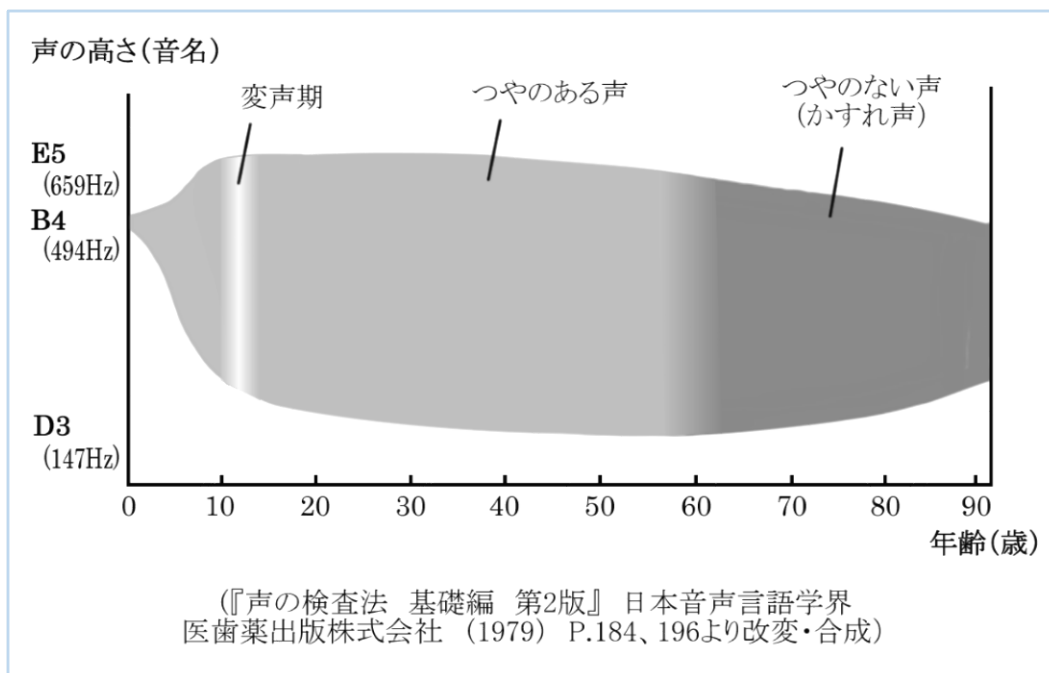


図 2-10 女性をつやのある声からかすれ声への年齢変化

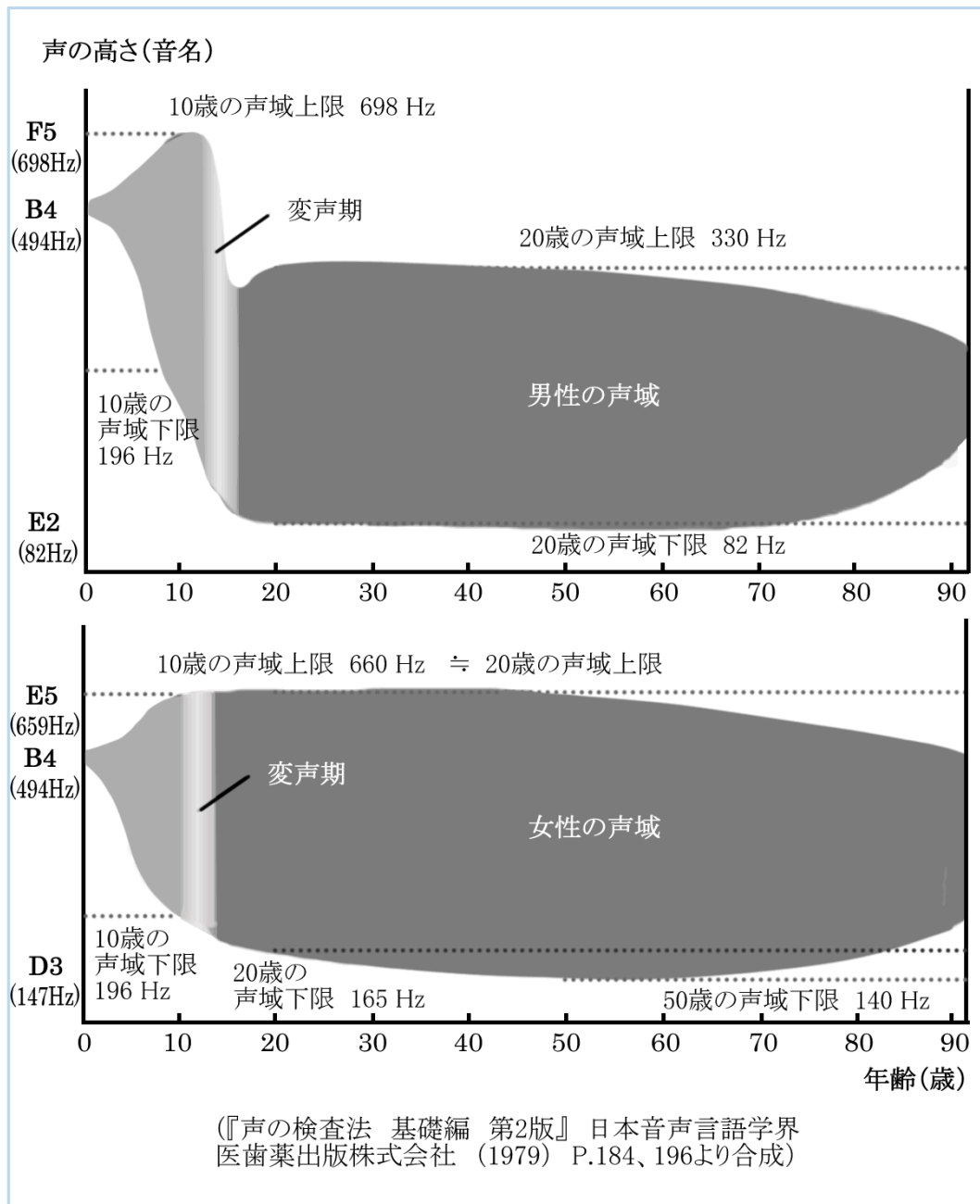


図 2-18 男女の声域の年齢変化

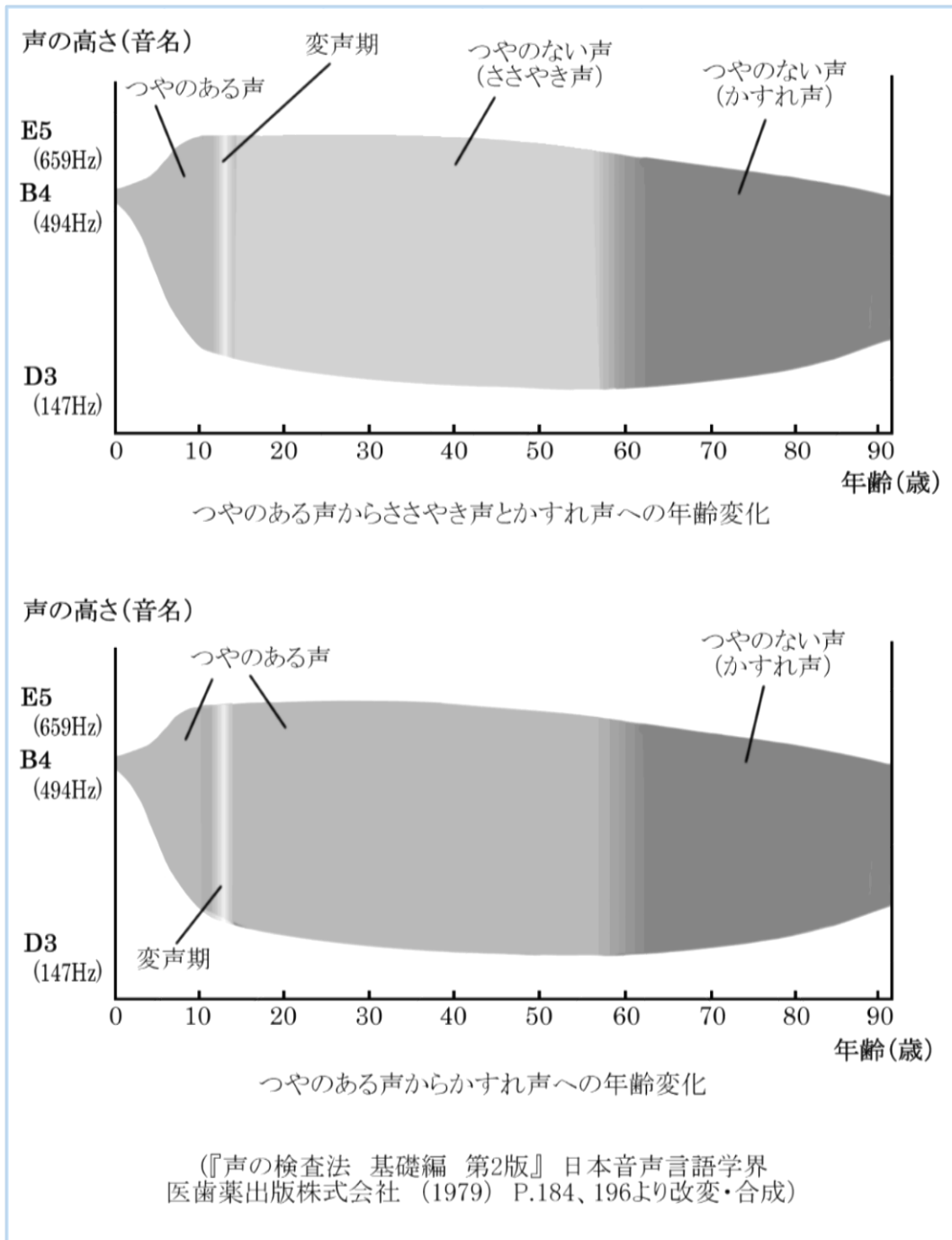


図 2-24 女性の声の質の年齢変化

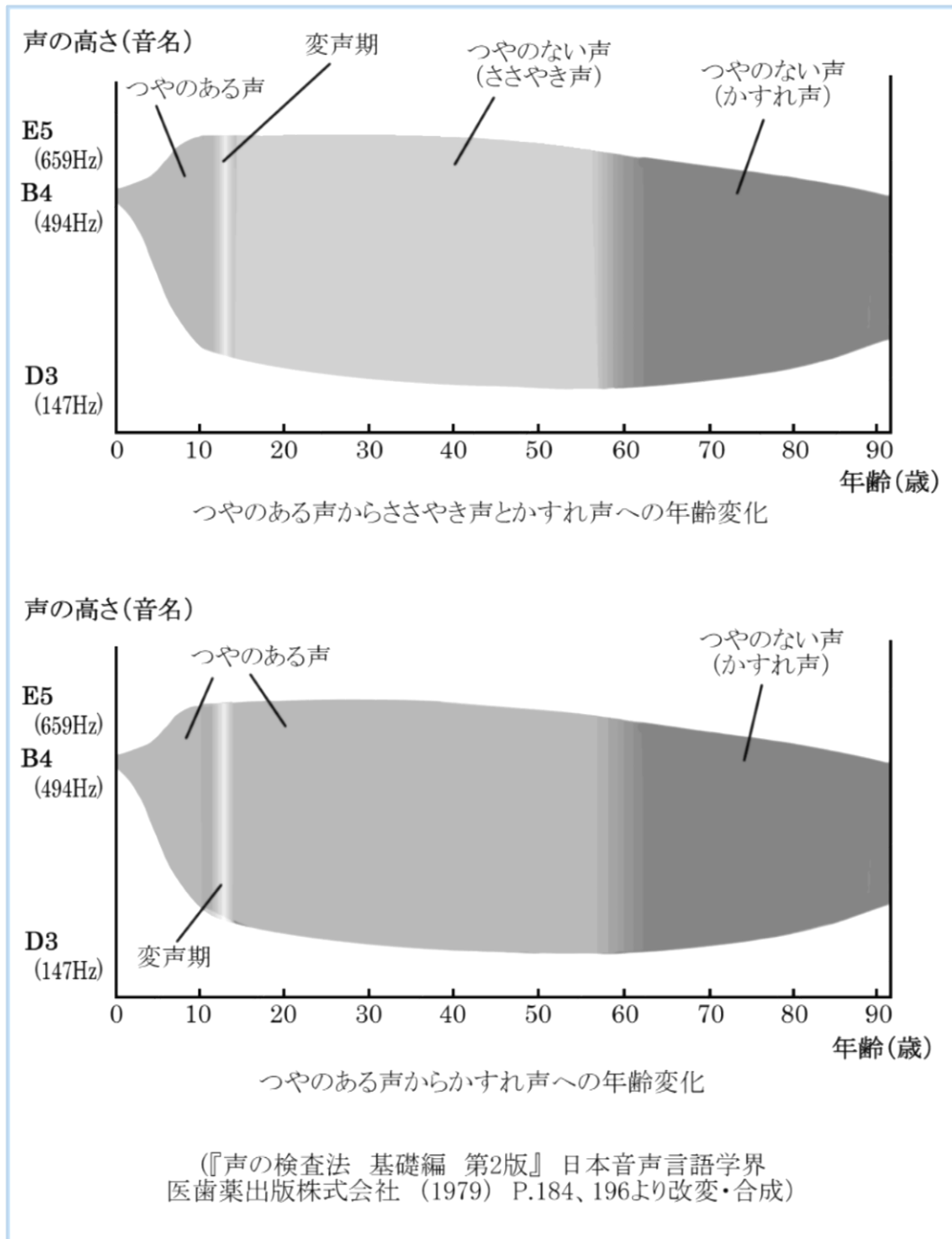


図 A-24 女性の声の質の年齢変化

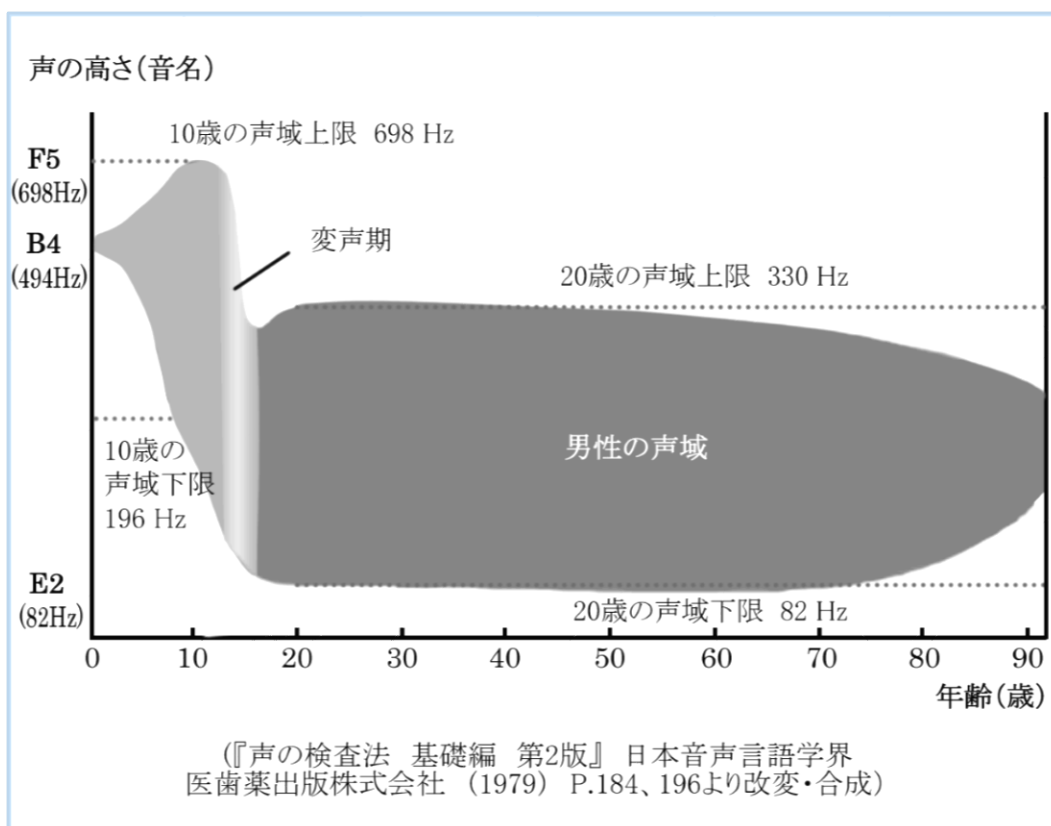


図 A-27 男性の声域の年齢変化

らの声域です。

この図からわかるように、生まれた直後は声域がとても狭いのですが、10歳頃までに声域は急に、特に高い方に拡大します。

その後、第二次性徴が来て男性ホルモンが大量に分泌されるようになると、声帯が約2倍の長さに成長し、喉仏が大きく飛び出し、声がかすれたり不安定になったりします。これが変声期といわれる時期です。これによって声域は約1オクターブ急降下しますが、変声期を過ぎると安定した成人の声域になります。

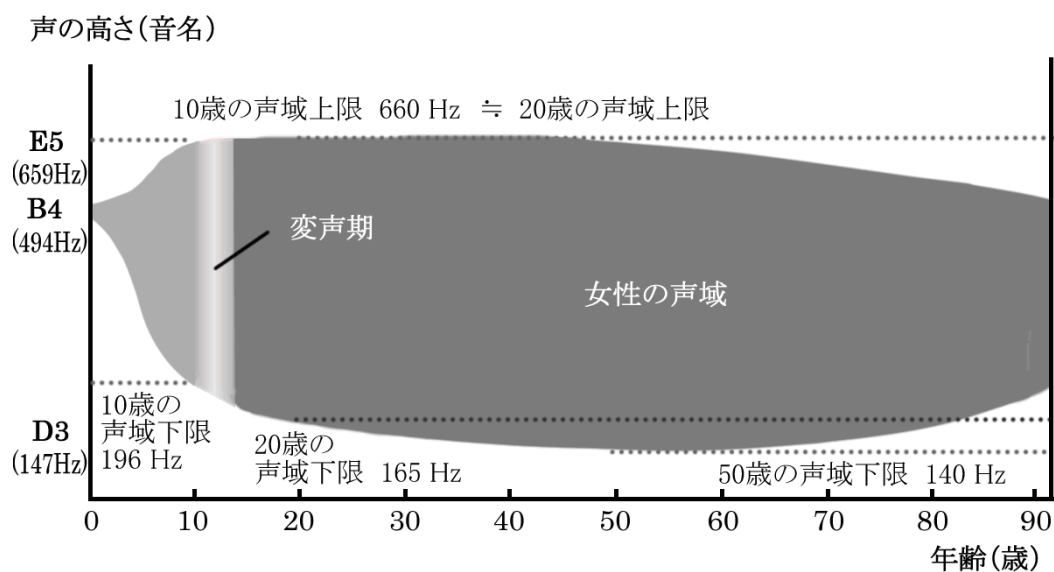
さらに、60歳ごろを過ぎると声帯は老化し固くなってゆくとため、幅広い周波数の音が出せなくなります。声域は徐々に狭まってゆき、高い音も低い音も出にくくなり、中間の高さの音しか出せなくなってゆきます。

一般に、声の高さは周波数(Hz、ヘルツ)で表しますが、西洋音階の音名で表すこともあります。

上図で、縦軸に示したF5～E2は音名を表しています。

大人の男性の声域は、ほぼ、330Hzから82Hzの間です。

次に、女性の声域が年齢によって変化してゆく様子を示します(図A-28)。



(『声の検査法 基礎編 第2版』日本音声言語学界  
医歯薬出版株式会社 (1979) P.184、196より改変・合成)

図 A-28 女性の声域の年齢変化

女性も、男性と同様に、生まれた直後は声域がとても狭いのですが、10歳くらいまでに急に声域が拡大します。女性の10歳の時の声域上限(660Hz)は、男性の10歳の時の声域上限(698Hz)よりもやや低くなります。この頃は、大声を出したときは、男児よりも女児のほうがやや声の高さが低いのです。

その後、目立たない変声期が女性にも訪れ、成人の声に変化します。高い音(声域の上限)はほとんど変わりませんが、低い音(声域の下限)はさらに低くなります。

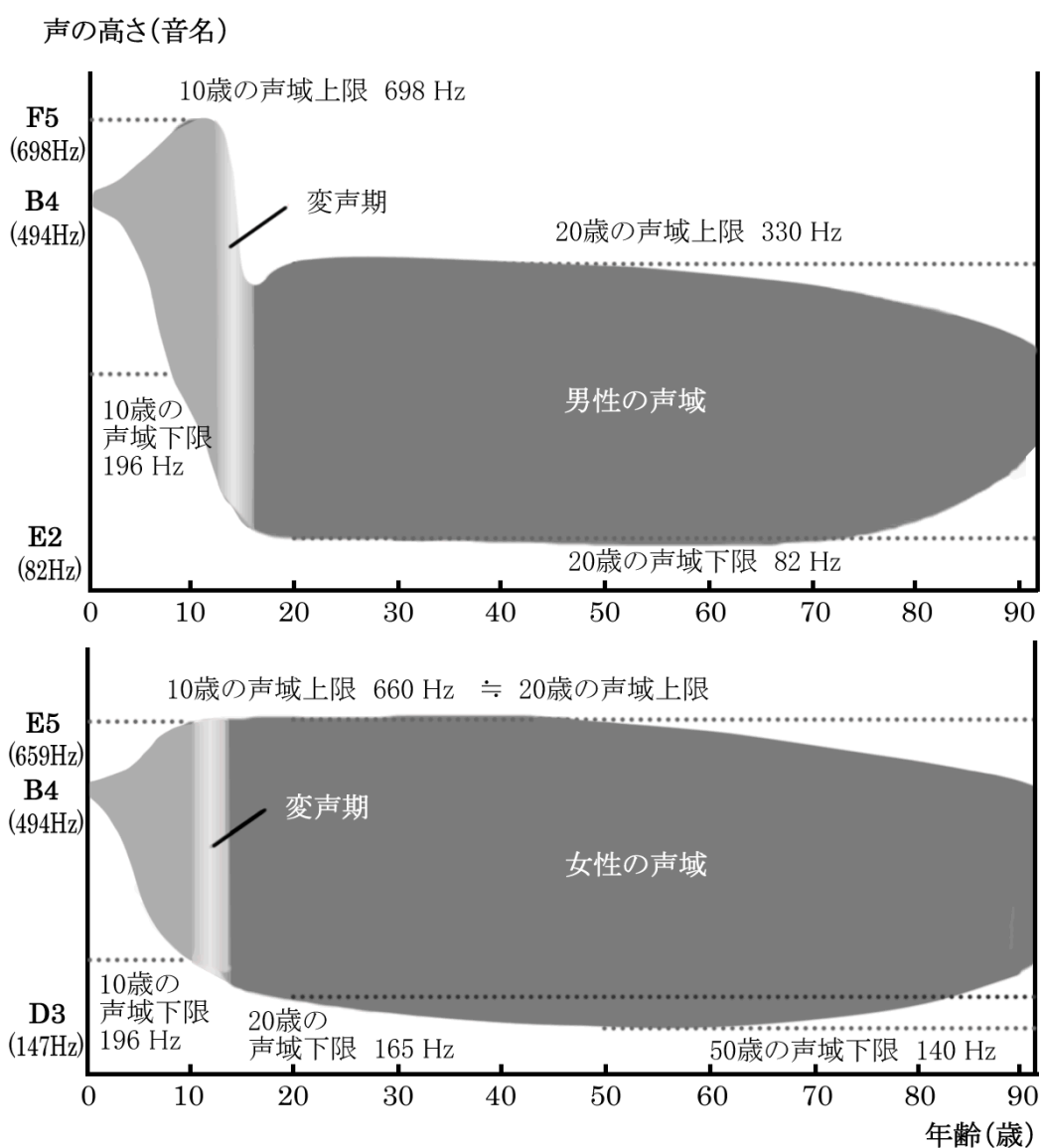
高い音の範囲はほとんど変わらないので、女性は大人になっても高い声を出すことができます。アニメの声優のように、子供の声のまねをすることもできます。女性の低い声(音声の下限)は低くなるものの、男性の声ほどには低くなりません。

大人の女性の声域は、ほぼ、660Hzから140Hzの間です。

女性の場合も声域は老化しますので、60歳を超えたころから声域が少しずつ狭くなってゆきます。つまり、高い音も低い音も出にくくなり、中間の高さの音しか出せなくなってゆきます。高齢の女性は、緊張した時などに、若いときに出せたような高い声を出そうとすると、声が裏返ることがあります。

次の図は、男女の声域の変化を比較したものです(図 A-29)。





(『声の検査法 基礎編 第2版』日本音声言語学界  
医歯薬出版株式会社 (1979) P.184、196より合成)

図 A-29 男女の声域の年齢変化の比較

男女とも、変声期以前はほとんど同じ声域ですが、男性の声域は変声期で約 1 オクターブ下がるため、その後大きく違ってくることがわかりますね。

この男女の声域の違いを表すために、音楽用語で、成人男性の声域を胸声(胸に響く声)、成人女性の声域を頭声(とうせい、頭に響く声)と表現する場合があります。

声域というのは人が最大限出せる音の高さの範囲ですが、先に述べたように、日常会話